

第1次川舟自治協議会地域づくり計画

(令和7年度～令和13年度)



令和7年3月

西和賀町川舟自治協議会

第一次 川舟自治協議会 地域づくり計画

(本編)	(ページ)
1. 地域づくり計画書とは	1
(1) 地域の現状と課題	
(2) 計画作成の目的	
2. 計画の概要	2
(1) 計画のテーマ	
(2) 計画の期間	
(3) 計画が目指す地域の姿と目標	
3. 具体的な取組項目	3
(1) 【つながり】に係る取組	
(2) 【あんしん】に係る取組	
(3) 【たのしみ】に係る取組	
(4) 【カイゼン】に係る取組	
4. 計画実行のための新たな組織体制図	5
(資料編)	
5. 「住民アンケート」の実施結果	6
6. 意見交換会「地域のことをみんなで話そう会」 の実施結果	22
7. 地域づくり計画作成までの主な流れ	36
8. 地域づくり計画作成委員会メンバー	37

1. 地域づくり計画とは

(1) 地域の現状と課題

- ① 高下・川舟・丸志田を範囲とする川舟地域でも他の地域と同様に人口が急減しており、今後もその流れは続いていくと予想されています。
- ② また、住民の高齢化が進んでおり、地域の中で活動できる人がどんどん少なくなっています。
- ③ 地域には、さまざまな有形、無形の資産や制度があるにも関わらず、よく分からない、面倒そう、動かせる人がいないなどの理由により、有効に活用されていないと思われるものが多いです。

(2) 計画作成の目的

- ① 住民がこれまで続けてきた地域の活動が、しだいにできなくなってきており、このままでは、近い将来、ここに住み続けられなくなってしまうのではないかと不安が高まってきています。
- ② 今後もこの川舟地域で、贅沢でなくても心身ともに健やかに暮らし続けるためには、地域のみんなが将来の姿や目指す目標を話し合い、明らかにして、同じ方向に向かって進んでいくことが必要です。
- ③ 今ある資源や制度、人材などをもっと活用し、抱える問題を解決し、不安を解消していく必要があります。
- ④ 地域みんなで考え、決定し、実行する地域づくりを推進するために、相応しい仕組みを作り、担い手となる人材を見つけ、育てていく必要があります。
- ⑤ ここに住みたいと思う人は、一人残らず住み続けられる地域にするため、地域がめざすものを明らかにし、一步一步着実に前に進んでいけるように、この計画を作成することにしました。

2. 計画の概要

(1) 計画のテーマ

ここに住みたいと思う人、みんなが
住み続けられる地域にしよう
～つながり・あんしん・たのしみ・カイゼン～

(2) 計画の期間

令和7年度から令和13年度までの7年間

- ・前期期間：令和7年度～令和9年度
- ・後期期間：令和10年度～令和13年度

※ 前期期間では、基本的な仕組みや枠組みに係る取組や緊急性の高い取組、比較的困難でない取組を中心に進めます。後期期間では、その後の状況の変化やそれまでの取組結果などを踏まえて、必要な取組を進めます。

(3) 計画が目指す地域の姿と目標

- ① 困ったときに困ったと言い合える「つながり」をつくろう
- ② 外との「つながり」を使って地域を豊かにしよう
- ③ みんなが協力して「あんしん」して暮らせる地域にしよう
- ④ みんなが参加したいと思うような「たのしい」ことをしよう
- ⑤ これからの人、これからのことのために、今からできることをしよう
- ⑥ 地域のいろいろな資源を最大限に活用しよう
- ⑦ みんなの智慧と工夫で負担を減らそう

具体的な取組項目



【つながり】

1. 住民同士のつながりを保つ取組
 - (1) 住民が気軽に参加できるちょっとした行事を企画する（ゲーム大会、町民講座、料理講習、食事会、一日カフェ、一日飲み屋、地域の昔のを知る会など）
 - (2) 一人暮らしの世帯、高齢夫婦だけの世帯への見守りの方法を考える
2. 買物や通院が不便にならないための取組
 - (3) 買い物や通院の際に、気軽に乗ったり乗せたりする仕組みを考える
3. 草刈りや除雪が続けられる地域になるための取組
 - (4) 地域による除雪の負担軽減策を検討する
4. 地域に迷惑がかかる空き家を増やさないための取組
 - (5) 町の担当部署とも連携し、地域の空き家相談の体制を整える
例えば、空き家の利用を希望する人と所有者との連絡、話合いの支援 など
5. 地域の人口を増やすための取組
 - (6) 地域の魅力を発信する方法を考える
 - (7) 二拠点居住（西和賀と盛岡、西和賀と北上など）の人を増やすための仕組みを考える

【あんしん】

6. 災害に対処できる地域になるための取組
 - (8) 災害を想定した対応計画を考える
例えば、真冬の吹雪の日の災害発生を想定した対応など
 - (9) 有事の際の連絡網を検討する
 - (10) 効果的な防災訓練を考える
7. 犯罪に遭いにくい地域になるための取組
 - (11) 他地区での取組などを勉強してみる
8. 有害獣被害を受けにくい地域にするための取組
 - (12) 町の補助や他地区での取組などを勉強する
9. 暮らしの中で困っていることなどを容易に相談できるような取組
 - (13) 困りごと相談を受ける仕組みを作る
例えば、国や県、町などの既存の困りごと相談の制度等を分かりやすく整理して共有する など
 - (14) スマホ相談を集落支援員の協力で実施する

【たのしみ】

10. さまざまな住民が地域の行事や活動に進んで参加するようになるための取組
 - (15) 盆踊りの太鼓講座
 - (16) 若い世代にも参加してもらうことを想定して、子どもを対象とした行事を考える
 - (17) 3 公民館の行事等を載せたイベントカレンダーを作成する

11. 地域に愛着を感じ、愛着を深めるような取組
 - (18) 昔の様子がわかる資料や写真などを集めてみんなで見られる資料集のようなものを作る
 - (19) 地域の宝さがし、地域資源の見直し

12. 公民館を利用し続けることができるようにするための取組
 - (20) 公民館を使って楽しい行事を企画する
例えば、ゲーム、カラオケ、町民講座、料理講習、食事会、炭づくり、フリーマーケット、漬物づくり、一日カフェ、一日飲み屋、地域の老人から昔のことを知る会 など
 - (21) できるだけ手の掛からない公民館の管理方法をみんなで考える
 - (22) 検討委員会を設置し、公民館の維持管理策、経費節減策を検討する
例えば、できるだけ一括交付金を確保するための公民館の利用機会、利用人数を増やす方法など。
 - (23) 公民館を気軽に使える方法を検討する
例えば、バスが来るまでちょっと休めるような公民館の仕組み、気軽に使えるカギの管理方法 など

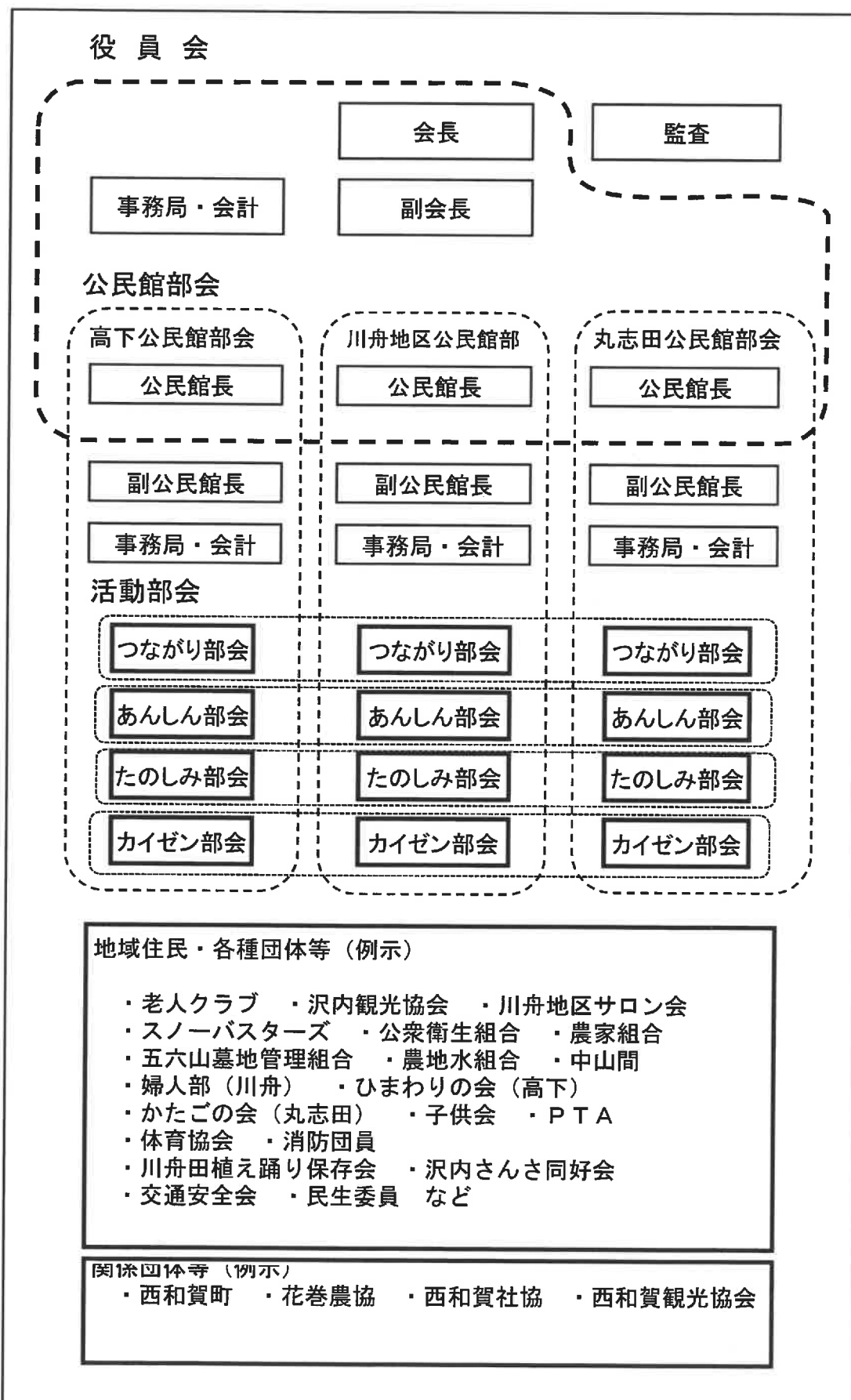
【カイゼン】

13. 地域の組織団体が見直され、役職や負担が減るような取組
 - (24) 現状に合わない地域の組織・団体の再編成などができないかを検討、提案する
 - (25) 既存の仕組みと組み合わせることで負担を軽減したり、効果を高めたりできないかを検討する
例えば、スノーバスターズ、サロンと連携した地域活動 など
 - (26) 地域だけでできないものを町に要望する仕組みを考える
 - (27) 3 公民館の運営組織を自治協議会内に位置づける
 - (28) 自治協議会の事務局機能を強化する
 - (29) 地域の課題を役員会等で検討する仕組みを考える

14. 住民の負担を軽減するための取組
 - (30) 既存の行事や活動を「止められないか」「減らせないか」「変えられないか」などの観点で点検してみる
 - (31) 公民館の地域を越えて共同した行事や活動ができないかを検討する
 - (32) 不要なものや処分したいものの有効活用を考える

※ 今後、地域で話し合いをして、各項目の更に具体的な取組を整理していきます。

計画実行のための新たな組織体制図



川舟自治協議会「住民アンケート」の実施結果

1. 目的

今年3月の川舟地区自治協議会総会において「地域の皆で話し合いをし、高下・川舟・丸志田の課題や将来についての計画を作ろう」ということになりました。

本調査は、話し合いの前に地域に暮らす皆さんの現状やお考えを聞くことにより、将来の川舟地区全体をもっといい地域にしていくための一歩となるように、話し合いを進めていくための基礎的な資料とすることを目的にしています。

2. 調査対象

川舟地域住民（高下地区・川舟地区・丸志田地区の中学生以上の住民全員）

3. 調査方法

- (1) 世帯ごとに対象者分のアンケート用紙を封筒に入れて、協議会長が班長を通じて川舟地域の全世帯に配布しました。
- (2) 封筒に入った記入後のアンケート用紙を班長が回収し、協議会長に届けました。
- (3) QRコードを示した「スマートフォン等での回答について」のチラシをアンケートに同封し、紙によらずにスマートフォンやパソコンからも回答できるようにしました。

4. 調査実施期間

令和6年7月1日（月）～15日（月）

5. 回収結果

配布数 301、 回答数 247、 回答率 82.1%

※ 回答数には一部のみの回答も含んでいます

（地区別内訳）

	配布数	回答数	回答率
高下	127	92	72.4%
川舟	101	90	89.1%
丸志田	73	65	89.0%

6. 実施主体

川舟地区自治協議会

	全体	高下	川舟	丸志田
参加したい	57	25	19	13
分からない	78	29	30	19
合計	135	54	49	32

住 民 ア ン ケ ー ト

～ご協力のお願い～

今年3月の自治会(川舟自治協議会)の総会で、地域みんなで話し合いをして、高下・川舟・丸志田の課題や将来についての計画を作ろうということになりました。話し合いの前に、地域の皆さんの状況やお考えを聞いてみたらどうかということになり、アンケートをすることになりました。この地域をもっといい地域にしていくための一歩となるものですので、ご面倒をおかけしますが、アンケートへのご協力をお願いします。

川舟自治協議会 会長 高橋 定雄

- ① アンケートは、ウラとオモテ、全部で4ページです。回答に要する時間は5分ほどです。
- ② 地域に住む、中学生以上の全員が対象になります。1人ずつ、それぞれにお書きください。
- ③ 7月15日(月)までに記入いただき、記入後のアンケートは、入ってきた封筒に世帯分を入れて、班長さんにお戻ください。
- ④ いろいろな理由で回答が難しい場合もあるかと思いますが、できるだけ回答いただくようお願いいたします。
- ⑤ 本人の記入が難しい場合は、代筆していただいても構いません。(代筆も難しい場合は、そのままお返ください。)
- ⑥ 回答いただいた内容は、統計値として集計処理し、個人が特定できないように配慮して示す予定です。
- ⑦ ご不明な点などがあれば、地区の公民館長さんにお尋ねください。

現在の状況を教えてください。 (該当する番号に○をつけてください。)

1. **買い物や通院、通学等の移動で困ることはありますか。**

- ①ある ②ない ③どちらとも言えない

2. **気軽に話ができる人が近くにいますか。** (家族も含みます)

- ①いる ②いない ③どちらとも言えない

3. **話し相手とは、どれくらいの頻度で話しますか。**

- ①ほとんど毎日 ②週に1度 ③月に1度 ④年に数回 ⑤その他

4. **困りごとや悩みごとを気軽に相談できる人はいますか。**

- ①いる ②いない ③どちらとも言えない

【次のページもあります】

5. 相談できる人とは、どれくらいの頻度で会いますか。

- ①ほとんど毎日 ②週に1度 ③月に1度 ④年に数回 ⑤その他

6. 冬に雪が多いことで困っていることはありますか。(家の周りの除雪、買い物、通勤、通学など)

- ①ある ②ない ③どちらとも言えない

7. これまで災害にあたり、直接目にしたことはありますか。

- ①ある ②ない ③わからない

8. 強引な誘いや押売りなどで断れずに困った経験はありますか。

- ①ある ②ない ③わからない

9. スマホやパソコンなどの操作で困っていることはありますか。

- ①ある ②ない ③わからない

10. この地域に住み続けることに不安を感じますか。

- ①感じる ②どちらかと言えば感じる ③どちらかと言えば感じない
④感じない ⑤どちらとも言えない

11. 増えている空き家について教えてください。

- ①困っている ②他人ごとでない ③自分にとっては特に問題でない

12. 地域に人が少なくなって不安に思うことはありますか。

- ①ある ②どちらかと言えばある ③どちらかと言えばない
④ない ⑤どちらとも言えない

13. 移住者が増えることについて、どう思いますか。

- ①地域にとっていいことである ②いいことではない ③どちらとも言えない

14. 地域の行事や活動にほとんど参加しない人がいることについて「地域に住んでいるのであれば地域の行事や活動に参加すべきだ」という意見がありますが、それについてどう思いますか。

- ①できるだけ参加すべきだ ②その人の考えで仕方がない
③行事や活動のやり方に問題がある ④何とも言えない

15. 以前は個人や家族で解決してきた問題が、放置されて地域の問題になってしまうケースが増えています。このような問題への地域の関わり方は、どうあるべきだと思いますか。

- ①できるだけ地域も関わって解決すべきだ ②できるだけ個人や家族に任せるべきだ
③地域ではなく町が解決すべきだ ④わからない

【次のページもあります】

16. 地域の行事や活動への参加について、どうお考えですか。

- ①できれば参加したい ②内容によっては参加したい
③できれば参加したくない ④どちらとも言えない

17. 自治会などの地域の組織や団体の運営に課題を感じますか。

- ①非常に感じる ②感じる ③特に感じない ④よくわからない

18. 何かあったら地域が助けてくれるという安心感がありますか。

- ①ある ②どちらかと言えばある ③どちらかと言えばない ④ない
⑤どちらとも言えない

19. 地域に、これからも大切に守っていきたいと思っているものはありますか。（習慣や行事、自然や景観、歴史や思い出など）

- ①たくさんある ②いくつもある ③特にない ④わからない

.....
あなたのことについて教えてください。

19. 住んでいる地区はどちらですか。

- ①高下 ②川舟 ③丸志田

20. 性別と年代を教えてください。

- ① 男性 ② 女性

- ①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60代
⑦70代 ⑧80代 ⑨90歳以上

21. 同居している家族の構成を教えてください。

- ①一人暮らし ②夫婦 ③2世代世帯 ③その他

22. 職業を教えてください。

- ①農業 ②農業以外の自営業 ③会社員 ④公務員・団体職員
⑤主婦 ⑥パート・アルバイト ⑦学生・生徒 ⑧無職 ⑨その他

【次のページもあります。次が最後のページです】

地域のことを みんなで話そう会



これは大切だから
残していきたいね

人が減ってしまって
大変だよね

こんなふうには
できないのかな

空き家になると
困るよね



暮らしのこと、悩みや困りごと、こんなものがあつたらいいなと思うことなど、何でもOKです。
みんなで話しあってみませんか？

お茶とみんなでつまめる軽い食べ物を用意します。
また、参加されたみなさんに粗品を提供します。

23. 皆さんに公民館に集まっていたいただき、今回のアンケート結果の報告と話合いの機会を持ちたいと考えていますが、その際には参加していただけますか。（改めてご案内することになります。）

①参加したい ②参加は困難だ ③参加したくない ④わからない

24. また、公民館まで行くのは難しいなどで参加できない方には、お宅に伺ってお話をお聞きすることも考えていますが、その際にはご協力いただけますか。（伺う際には、事前に都合を確認して伺うことになります。）

①協力したい ②協力は困難だ ③協力したくない ④わからない

ご協力ありがとうございました。

スマートフォン等での回答について

住民アンケートは、手持ちのスマートフォン等から回答することもできます。

同じ世帯の中で、スマホの回答と紙の回答が混在してもかまいません。

スマホで回答した方の紙のアンケートは記入せずにお戻しく下さい。

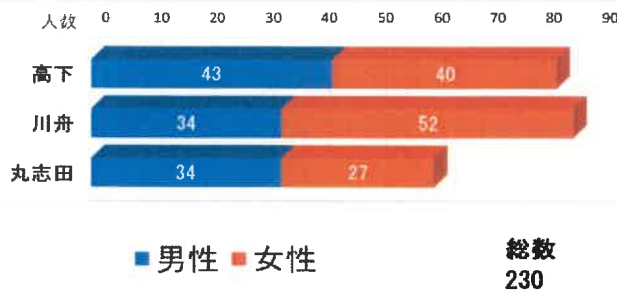
スマートフォン等で回答する方は下記の2次元コード(QRコード)を読みとり回答してください。

回答は、7月15日(月)までにお願いします。



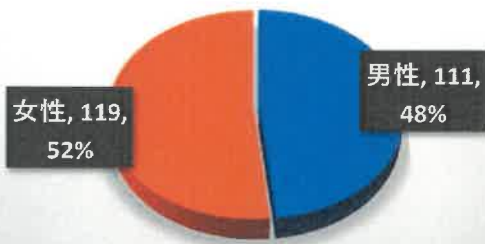
※ 最初が Q20 (20 番目の質問) になっていますが、アンケートの結果を分かりやすくするため、質問の順番を入れ替えて並べています。

Q20.住んでいる地区はどちらですか



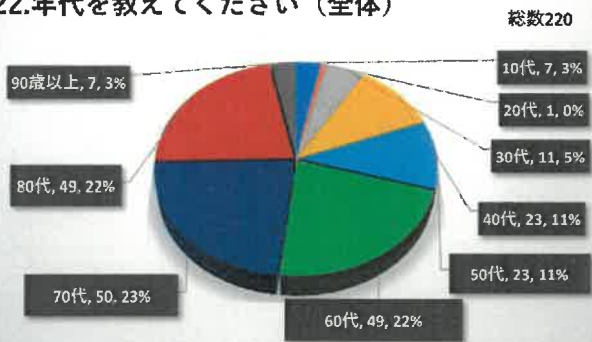
アンケートの回答者を地区別に見ると、多い順に、「川舟」が86人(37%)、「高下」が83人(83%)、「丸志田」61人(27%)となっています。

Q21.性別を教えてください。 総数 230



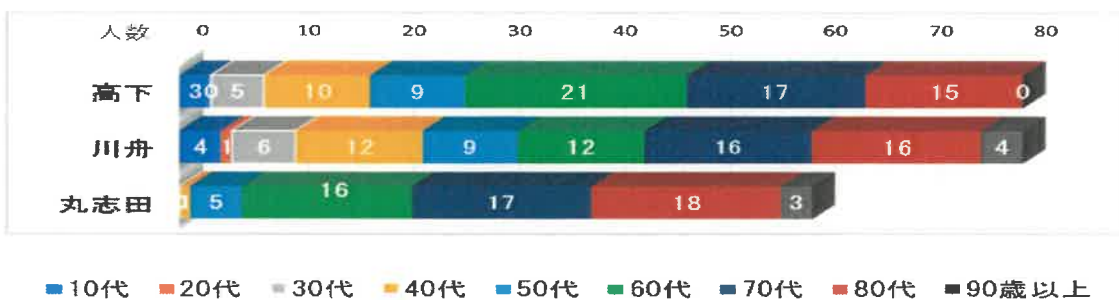
性別は、多い順に、「女性」が119人(52%)、「男性」が111人(48%)で、ほぼ同数、同じ割合となりました。

Q22.年代を教えてください (全体)

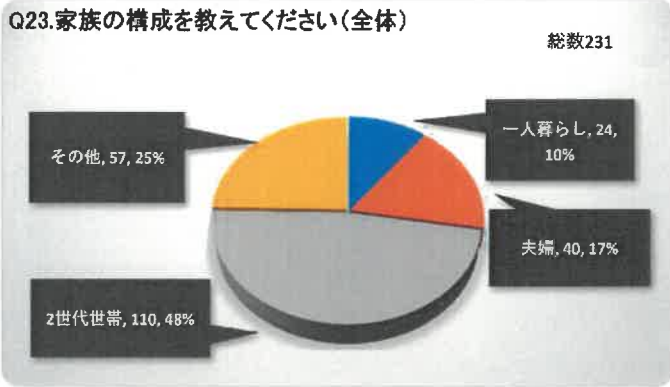


年代別では、多い順に、「70代」が 50 人 (23%) で一番多く、「80代」「60代」「50代」が同数で49人(22%)となっています。「50代」以下のいわゆる「若手」が65人(30%)となっています。

Q22.年代を教えてください (全体)



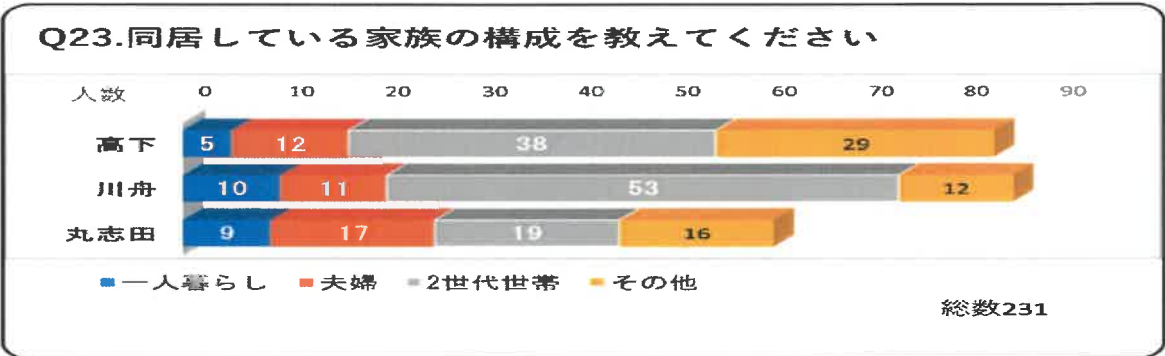
Q23.家族の構成を教えてください(全体)



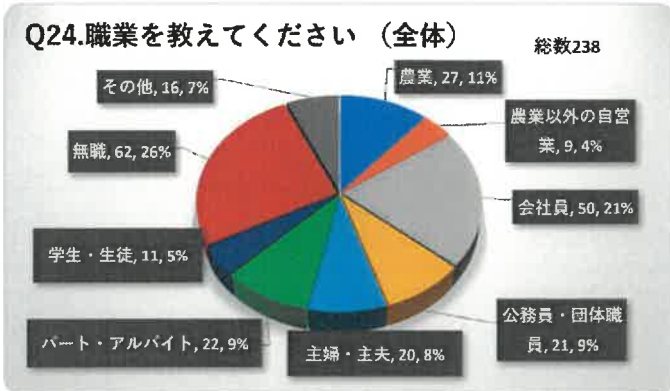
家族の構成は、多い順から「2世代世帯」110人(48%)、「夫婦」40人(17%)、「一人暮らし」24人(10%)となっています。(「その他」57人(25%))

※「2世代世帯」や「夫婦」等の一人ひとりから回答を受けているので、世帯数ではありません。

Q23.同居している家族の構成を教えてください



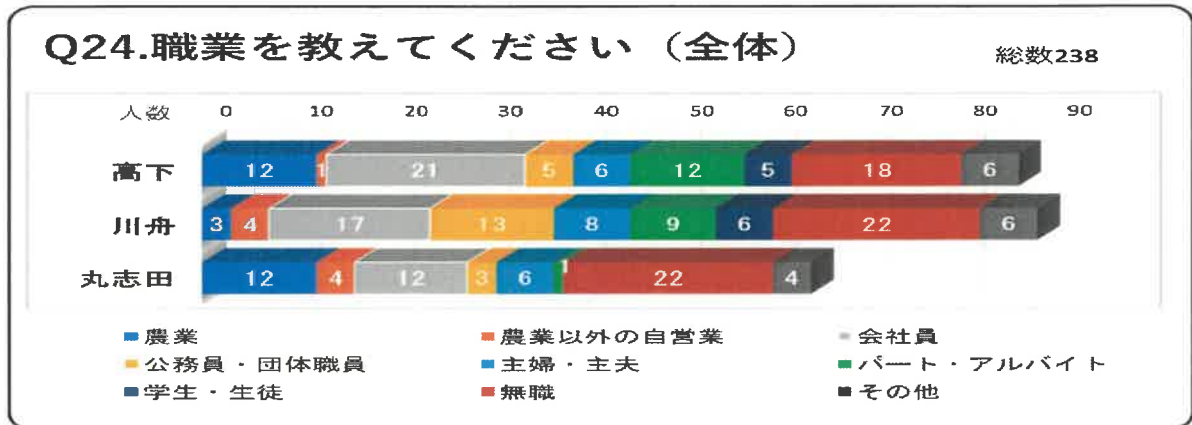
Q24.職業を教えてください(全体)



職業は、多い順から、「会社員」50人(21%)、「農業」27人(11%)、「パート・アルバイト」22人(9%)、公務員・団体職員」21人(9%)となっています。(「無職」62人(26%))

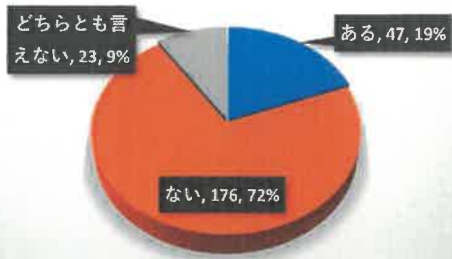
「学生・生徒」11人(5%)から回答がありました。

Q24.職業を教えてください(全体)



Q1.買い物や通院、通学等の移動で困ることはありますか。(全体)

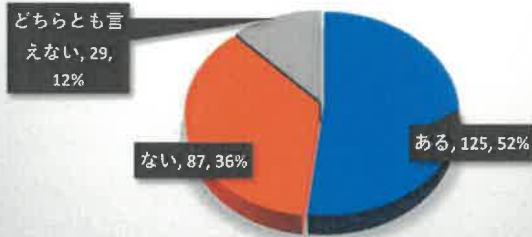
総数241



回答者の約2割(47人・19%)が、「買い物、通院、通勤等の移動」で「困ることがある」という回答でした。

Q6.冬に雪が多いことで困っていることはありますか(全体)

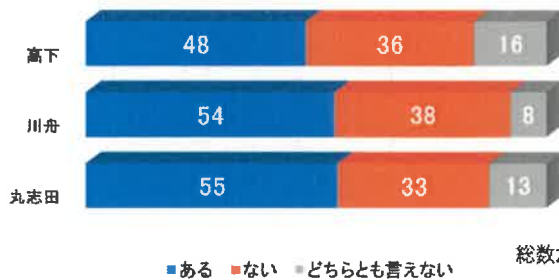
総数241



回答者の半数以上(125人・52%)が、「雪が多いことで困っている」という回答でした。

Q6.冬に雪が多いことで困っていることはありますか(%)

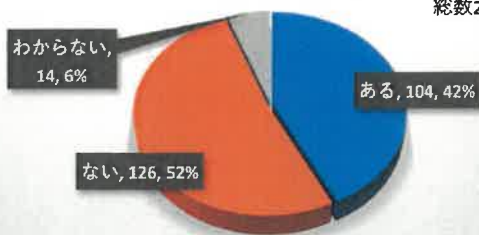
0% 20% 40% 60% 80% 100%



「雪が多いことで困っていることがある」と回答した割合を地区別に見ると、多い順から、「丸志田」55%、「川舟」54%、「高下」48%でした。

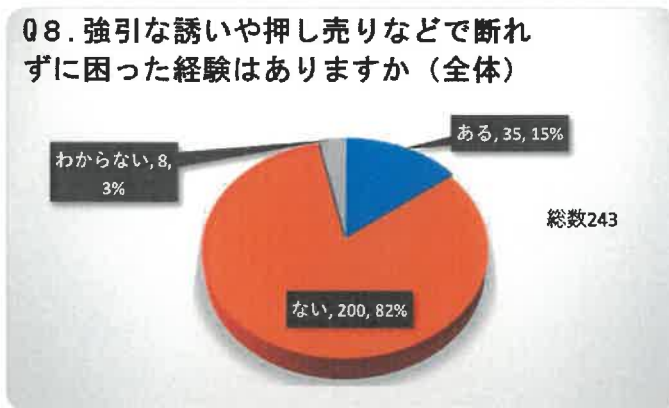
Q7.これまで災害にあたり、直接目にしたことはありますか(全体)

総数244



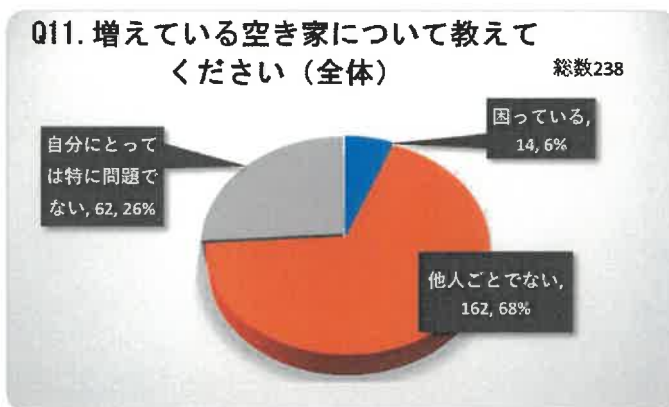
回答者の半数以上(126人・52%)は、これまで災害にあたり、直接目にしたことが「ない」という回答でした。

Q8. 強引な誘いや押し売りなどで断れずに困った経験はありますか（全体）



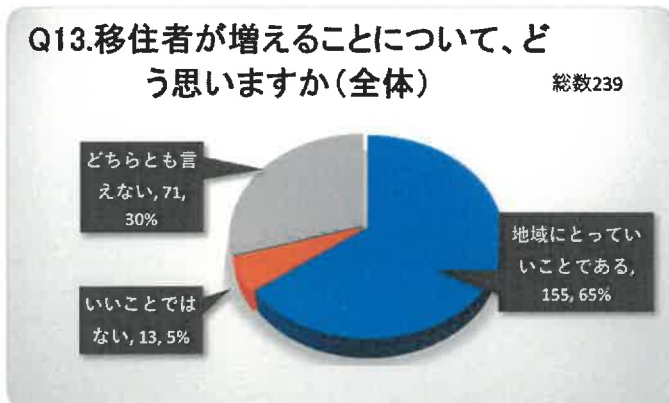
「強引な誘いや押し売りなどで困った経験」は回答者の8割以上が「ない」という回答でしたが、35人(15%)は「ある」という回答でした。

Q11. 増えている空き家について教えてください（全体）



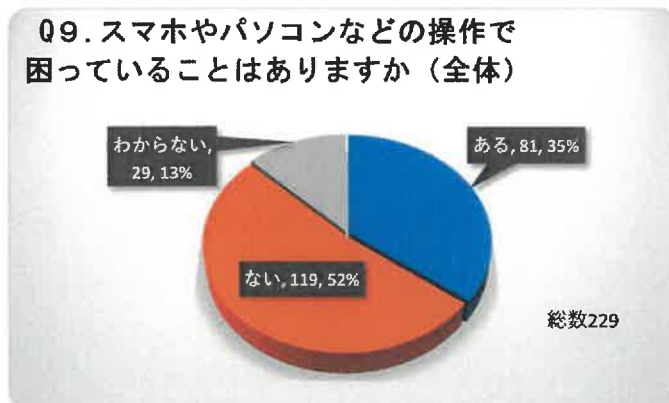
空き家のことで「困っている」(14人・6%)と「他人ごとでない」(162人・68%)の両方を合わせると約4分の3の人が問題を感じているという回答でした。

Q13. 移住者が増えることについて、どう思いますか（全体）



移住者が増えることについて、155人(65%)が「地域にとっていいこと」だという回答でした。その一方で、13人(5%)は、「いいことではない」という回答でした。

Q9. スマホやパソコンなどの操作で困っていることはありますか（全体）



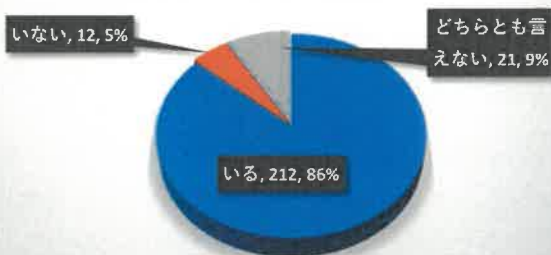
スマホやパソコン操作について、81人(35%)の人が「困っている」という回答でした。

Q19. 地域に、これからも大切に守っていききたいと思っ
ているものはありますか(全体) 総数232



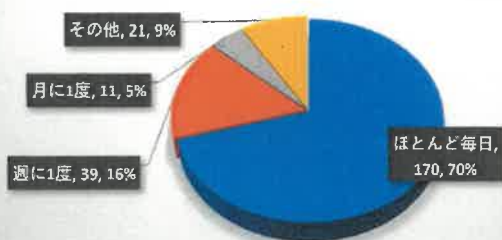
地域で大切に守っていききたいものについて、「守っていききたいものがたくさんある」(25人・11%)と「いくつかある」(115人・50%)を合わせると、6割を超える人が、「大切に守っていききたいものがある」と回答しています。その一方で、2割の人は「特になし」という回答でした。

Q2. 気軽に話ができる人が近くに
いますか(家族も含みます)(全体) 総数245



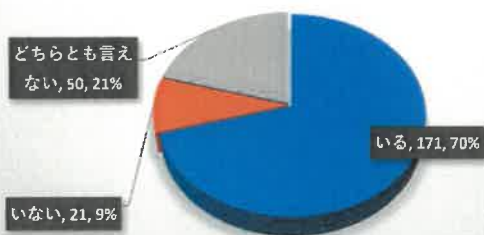
回答者の86%が「気軽に話ができる人が近くにいる」という回答だった一方で、5%の人は「いない」という回答でした。

Q3. 話し相手とは、どれぐらいの頻度で
話しますか(全体) 総数241



「ほとんど毎日」話をするという人が7割いる一方で、「月に1度」程度が5%、「その他」が2割以上という回答でした。

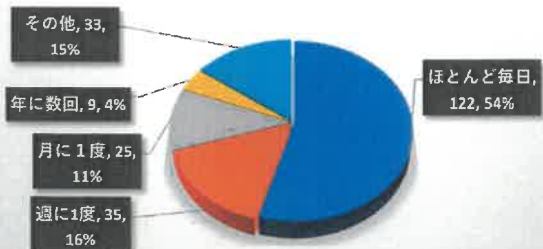
Q4. 困りごとや悩みごとを気軽に相談で
きる人はいますか(全体) 総数242



回答者の7割が「気軽に相談できる人がいる」という回答だった一方で、「気軽に相談できる人がいない」が9%、「どちらとも言えない」が21%という回答でした。

Q5.相談できる人とは、どれくらいの頻度で会いますか(全体)

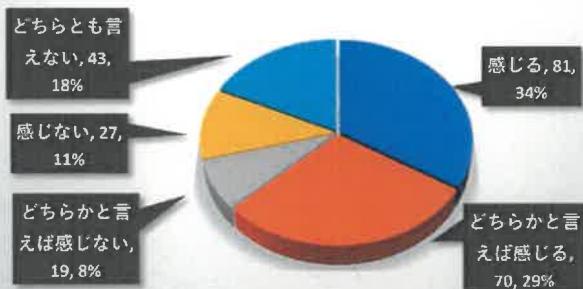
総数241



相談できる人と「月に1度」以上会っていると回答した人が7割いた一方で、「月に1度」程度が11%、「年に数回」程度が4%という回答でした。

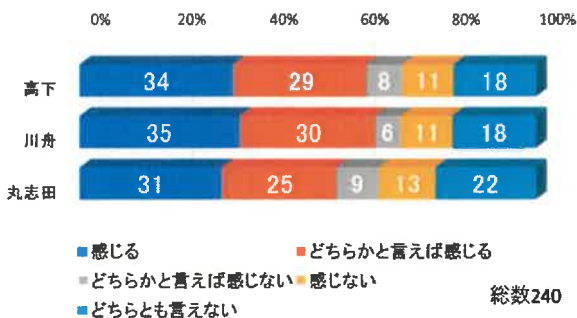
Q10.この地域に住み続けることに不安を感じますか(全体)

総数241



この地域に住み続けることについて、不安を「感じる」と「どちらかと言えば感じる」を合わせて、151人(63%)の人が「不安を感じる」という回答でした。

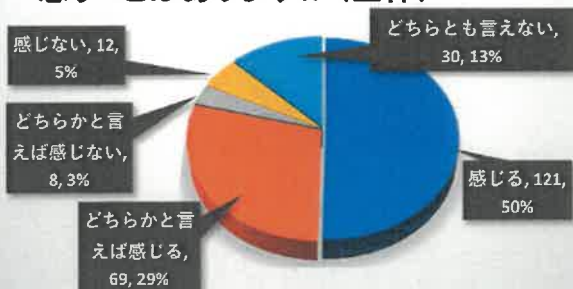
Q10.この地域に住み続けることに不安を感じますか



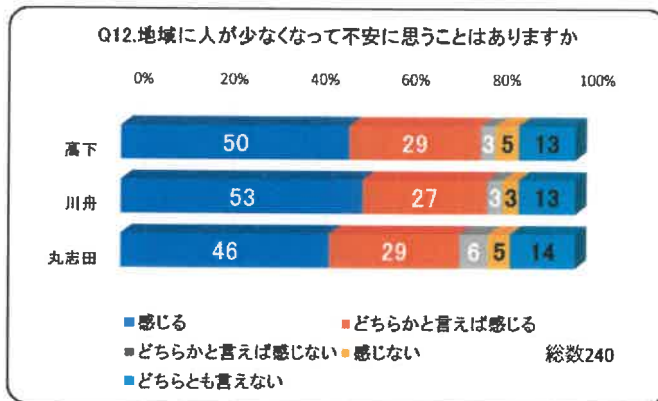
「不安を感じる」と回答した人を地区別に見ると、多い順から、「川舟」65%、「高下」63%、「丸志田」56%でした。

Q12.地域に人が少なくなると不安に思うことはありますか(全体)

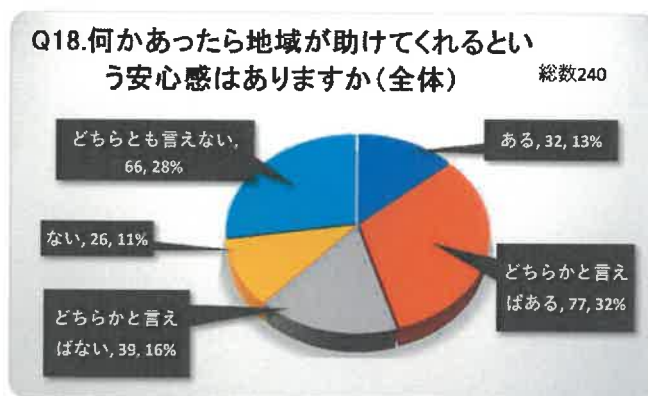
総数240



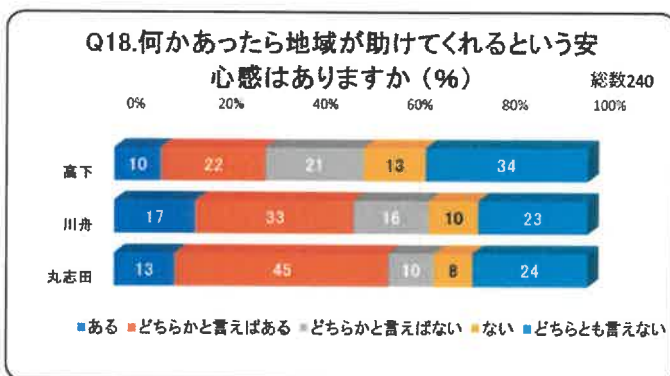
地域に人がいなくなっていることについて、不安を「感じる」と「どちらかと言えば感じる」を合わせて、約8割の人が「不安を感じる」という回答でした。



地域に人がいなくなっていることについて「不安を感じている」人の割合を地区別に見ると、多い順から、「川舟」80%、「高下」79%、「丸志田」75%でした。

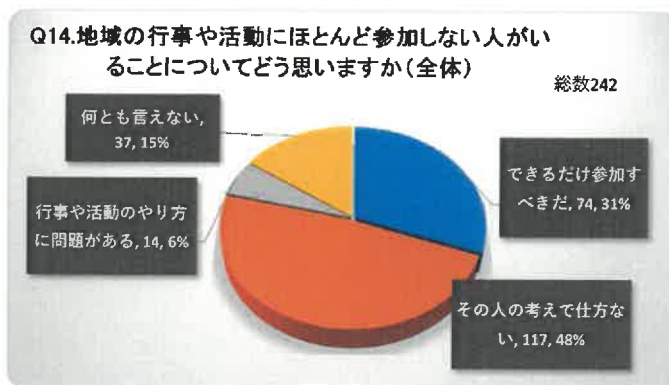


地域が助けてくれるという安心感について、「ある」と「どちらかと言えばある」を合わせた109人(45%)が「安心感がある」という回答だったのに対して、「ない」と「どちらかとも言えない」を合わせた65人(27%)の人は十分な安心感はないという回答でした。



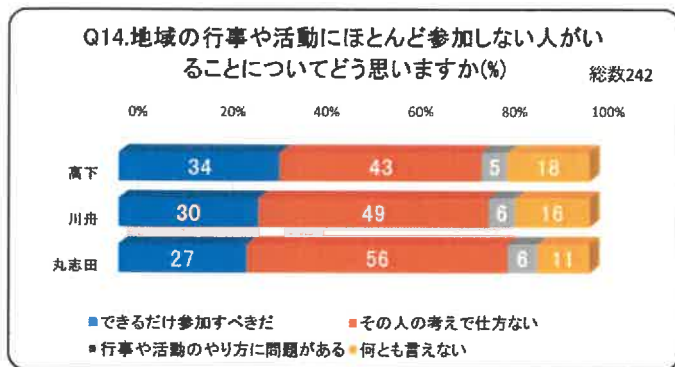
地域が助けてくれるという安心感があると回答した人の割合を地区別に見ると、多い順から、「丸志田」58%、「川舟」50%、「高下」32%でした。

一方で、「どちらかとも言えない」または「ない」と回答した人の割合は、多い順に「高下」47%、「川舟」33%、「丸志田」32%でした。

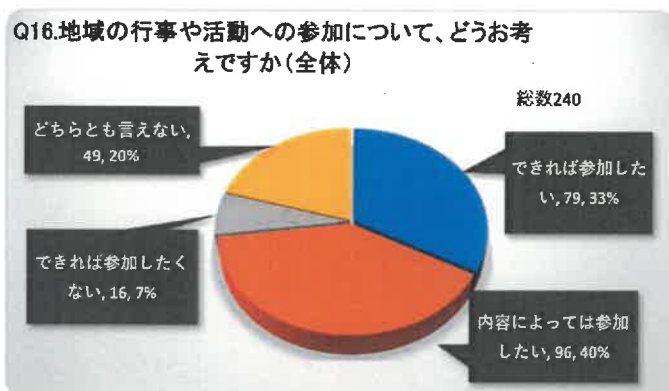


地域の行事や活動にほとんど参加しない人がいることについて、3割の人が「できるだけ参加すべきだ」としている一方で、約半分の人は「その人の考えで仕方ない」という回答でした。

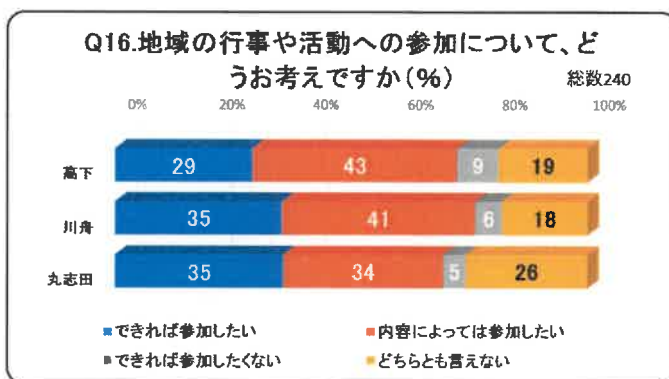
また、14人(6%)の人が「行事や活動のやり方に問題がある」と回答しています。



地域の行事や活動にほとんど参加しない人がいることについて、いずれの地区でも4割から5割の割合で「その人の考えで仕方ない」という回答でした。

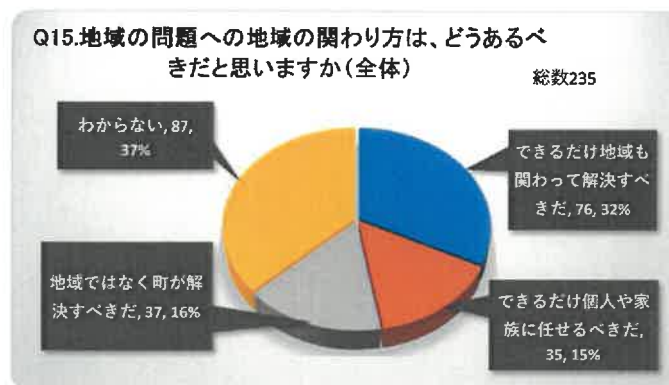


地域の行事や活動への参加について、「できれば参加したくない」という回答が7%だったのに対して、「できれば参加したい」が33%、「内容によっては参加したい」が40%で、両方合わせると7割以上の方が「参加したい」と回答しています。



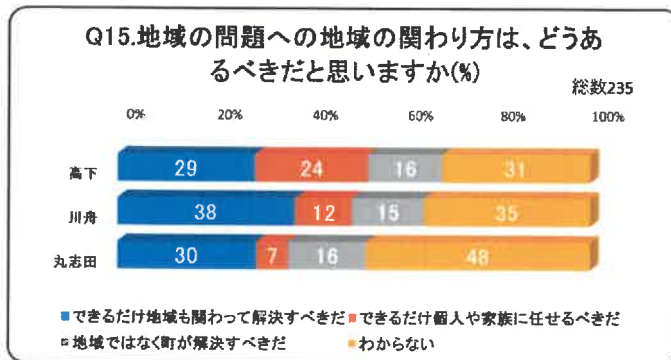
「参加したい」と回答した人の割合を地区別に見ると、多い順から「川舟」76%、「高下」72%、「丸志田」69%となっており、いずれも7割程度の高い割合でした。

また、回答者の3割から4割の人が「内容によっては参加したい」としており、参加者を増やすためには、期待に合致したものにすることが求められています。

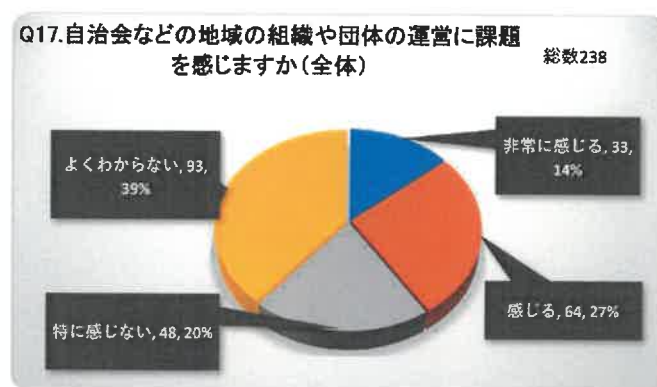


地域の問題に対して「できるだけ地域も関わって解決すべきだ」と回答した人が32%だったのに対して、「個人や家族に任せるべき」が15%、「町が解決すべき」が16%という回答でした。

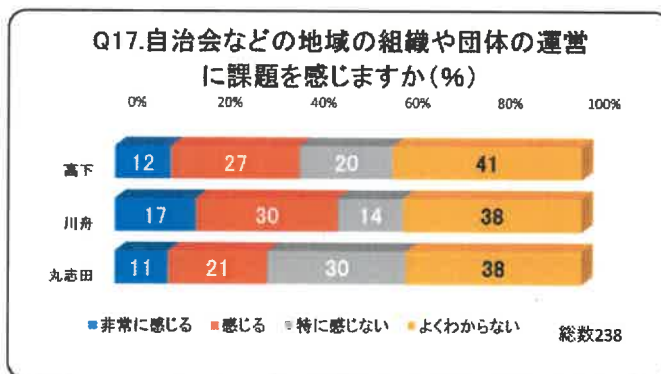
また、37%の人は「わからない」という回答でした。



「地域も関わって解決すべき」と回答した人の割合を地区別に見ると、多い順から、「川舟」38%、「丸志田」30%、高下29%でした。また、「わからない」と回答した人の割合は、「丸志田」48%、「川舟」35%、「高下」31%でした。

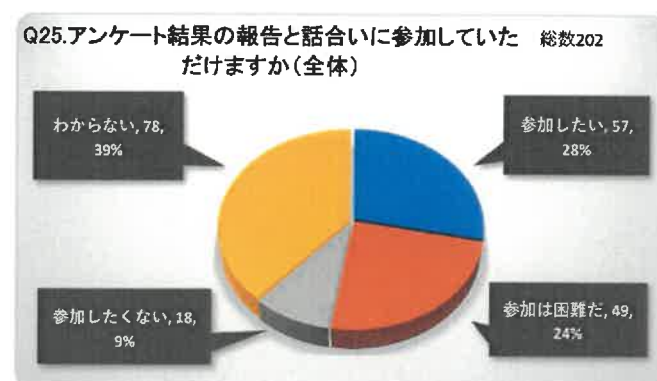


自治会などの地域の組織や団体の運営に対して「非常に課題を感じる」(33人・14%)とある程度「感じる」27%を合わせて、4割以上の方が「課題を感じる」という回答でした。また、約4割の人が「よくわからない」と回答しています。

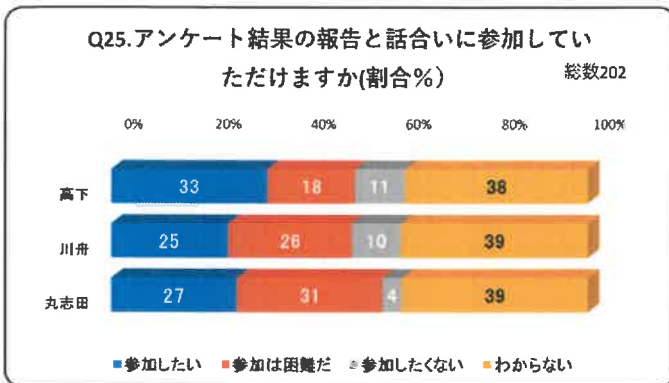


課題を感じると回答した人を地区別に見ると、「高下」で39%、「川舟」で47%、「丸志田」で32%という回答でした。

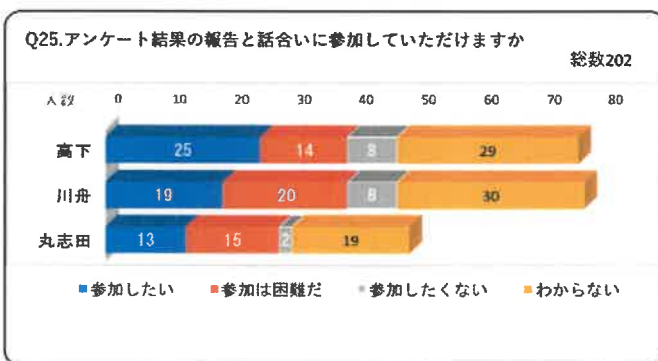
また、「よくわからない」は、「高下」で41%、「川舟」で38%、「丸志田」で38%でした。



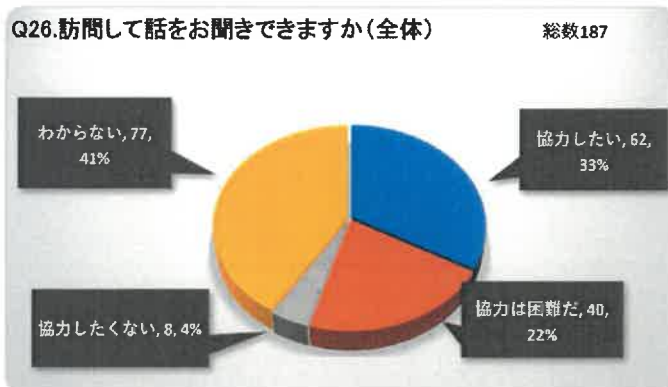
意見交換会(アンケート結果の報告と話し合い)について、「参加は困難だ」が24%、「参加したくない」が9%だったのに対して、回答者の28%が「参加したい」という回答でした。



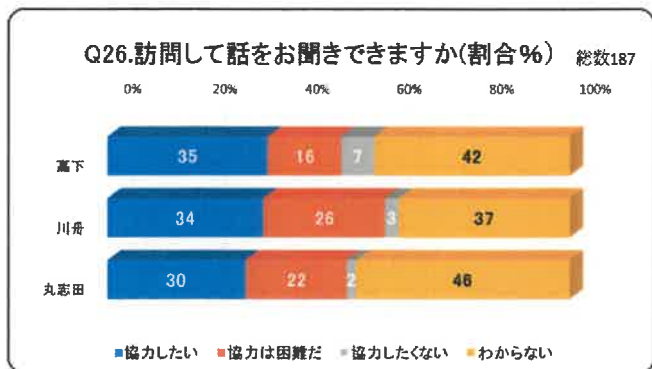
「参加したい」と回答した人の割合を地区別に見ると、多い順から、「高下」33%、「丸志田」27%、「川舟」25%となっています。



回答者の概ね4割の人が「わからない」という回答であり、地区別では、多い順に「川舟」30人(39%)、「高下」29人(38%)、「丸志田」19人(39%)でした。



意見交換会(アンケート結果の報告と話し合い)が夜に公民館でとなると出席が難しい方もいるだろうとの想定から、訪問して話を聞くことについて聞いたところ、62人(33%)の人から「協力したい」という回答がありました。



訪問して話を聞くことに「協力したい」と回答した人の割合を地区別に見ると、多い順から、「高下」が24人(35%)、「川舟」が23人(34%)、「丸志田」が15人(30%)でした。

意見交換会「地域のことをみんなで話そう会」の実施結果

【開催日時】

1. 日時：令和6年8月21日午後6時30分から 高下公民館 13名参加
2. 日時：令和6年8月22日午後6時30分から 川舟地区公民館 14名参加
3. 日時：令和6年8月23日午後6時30分から 丸志田公民館 15名参加

【次第】

1. はじめに（協議会長挨拶）
2. 住民アンケートの結果説明（全体）
3. 意見交換（グループ別）
4. おわりに

【意見等】

つながり

1. 住民同士のつながり
2. 買物、通学、通院
3. 草刈りや除雪
4. 防災、防犯、見守り
5. クマやサル、イノシシなどの有害獣
6. 空き家
7. 移住者の受け入れ

楽しみ

8. 地域の行事や交流・楽しみ会
9. 地域の宝物（習慣、自然、歴史・文化）

より良い暮らし・改善

10. 公民館の管理や活用
11. 自治会や地域の団体、活動の見直し
12. 地域活動への参加と貢献
13. ケイタイの使い方
14. その他 地域の問題

【主な意見等】

1. 住民同士のつながり

- (1) 昔と比べてコミュニケーションがなくなっている
- (2) 「あいさつ」は基本として大切だと思う。
- (3) 人の家に来たら声をかけること
- (4) もう少し隣組の力を借りてもいいような気がする
- (5) (アンケート) 地域が助けてくれるという安心感がある:45%
- (6) 自分が行くついでに乗せていってもいいけど、乗せるのが怖い
- (7) コミュニケーション不足
- (8) お酒飲む場所もない
- (9) お茶のみして歩いている人はあまりいない。昔はたくさんあった
- (10) コミュニケーションは自分次第なのではないか。
- (11) 最低でも隣の人とのつながりを作るべきではないか。
- (12) 隣の人とのつながりが減ってきた。
- (13) (お話をしに)行ったら迷惑かなと思う時もある。
- (14) 家が狭いから大人数を集めづらい。
- (15) バーデンとか集まれる場所がほしい。持ち込みすれば場所だけなら貸してくれる。バスはない。

2. 買物、通学、通院

- (16) 免許がなくなったらどうしよう
- (17) 10年後の免許返納を考えている
- (18) 免許をいつ返すか。80歳ぐらいか。
- (19) 高下は中山間の事業としてやっている
→通院、買い物支援:対象が75歳以上独居対象→同居家族に75歳以下がいれば対象外、今年度から中山間の加算が減額になり半分になってしまった
- (20) 高下や丸志田は中山間を使っている。川舟は加算が難しい
- (21) 買い物支援も困ってくると思う。今は自動車やお出かけバスを利用しているがそれが使えなくなったら困る。
- (22) 今まで地元商店があり不便がなかったが、店がなくなって不便になったと思う。メモをして遠くへ買い出しに行くことが増えた。メモし忘れもある。80代以上の高齢者には大変。身近なところに商店があればよいと思う。
- (23) 買いだめすることが増えた。

- (24) 買い物は生協を利用している。今後は注文書を書くことができなくなるかもしれない。
- (25) **移動販売**がほしい。
- (26) お出かけバスで買い出しに行く。周りの協力もあり、今のところ不自由はないが今後大変になっていくと思う。**買い物の配達**ができるようになってほしい
- (27) お出かけバスを利用している。バスも利用率が悪いとなくなるのではないかと心配がある。バスがなくなってほしくない。
- (28) 住民の足であるバスの利用は大事(週 2 回)。バスをなるべく利用してほしい
- (29) **コンビニ**が欲しい
- (30) 町内で買い物できる場所が遠い
- (31) 交通手段が少ない
- (32) 髪のカットのチラシが入っていていいと思った。
- (33) **80歳過ぎると不安**になると思う
- (34) 隣にも住んでいる人がいないからカギを閉めている。

3. 草刈りや除雪

- (35) 地域でも**危機感を持って**考えてもらいたい
- (36) 有償でもいいので、**地域で草刈りを請け負ってくれる人や団体**があればいいと思う
- (37) 今後、県道などの草刈りができなくなるのではないか
- (38) 県道の草刈りをやっているが、2年後、3年後は難しいと考える
- (39) 草刈りで24万円を今はもらえている。これからのことを考えるべき。
- (40) 高齢化により自宅周辺の草刈りが大変になっている
- (41) 業者が基盤整備をやっているが、草刈りをする範囲が2倍以上増えている。果たして基盤整理を行って正解だったのだろうか。農事組合法人がやってくれているところもあるが、将来的に自分たちで草刈りをやっていけるのかという不安がある。除雪も同じく。
- (42) 農事組合法人で働く若者がいるからこそ今は維持できている。将来的にどうなるのか、動ける人はいつまで動けるのか
- (43) 除雪や草刈りについては、やれるまでがんばってもらう
- (44) 除雪・草刈り(せめて地区内と、隣の家を重視)
- (45) 雪が多いのは仕方がない
- (46) 冬の季節は雪が多くて除雪や買い物に出かけるのが大変
- (47) サロンで除雪支援を行っている。

- (48) 玄関前のみ雪を払い周りを払っていかない人がいる。なんでもかんでもボランティアで対応するのには限界がある。
- (49) 若い人は役場や農協などに務めているので、個人の除雪ができていない。仲間同士で除雪し合うのが難しい箇所もある。除雪支援を受けるところはみな一人暮らし世帯で大変だ。
- (50) 除雪車の除雪はしっかりと雪が払えているところ、払えていないところの差が大きい。**偏りのない除雪**を行ってほしい。除雪車でしっかりと払ってもらうよう地域で働きかける必要があるのではないか
- (51) 県道除雪に伴う残雪に困っている(重機によるものは、大きくて硬い)。**玄関に雪を置かないでほしい**が直接言えない。現状は仕方がないとあきらめている。
- (52) 除雪車の講習で玄関に雪を置かないように、特に一人暮らし宅への除雪の配慮が必要と教えられているという話もあるが、**地域で働きかけるべき**ではないか。
- (53) シャッター付きのローラーを回すように県の土木センターに掛け合ってほしい。
- (54) 除雪は、近所に助けてもらったりしている。
- (55) **流雪溝**がほしい。
- (56) 流雪溝はいい面ばかりでなく、流雪溝がある新町では、排雪の面で困っているようだ。
- (57) **スノーバスターズ**がちゃんと機能していない
- (58) **老人世帯の除雪**などを地域で考える
- (59) 車庫前、家の入口等にブルで**雪の塊**を残していくのが何回も続くと、払ってもらってもありがたみがなくなってしまう
- (60) (アンケート) 雪のことで困っている:52%。一人暮らしの人:54%
- (61) 通勤時や買い物にでかける時雪が多くて自家用車を運転するのが難しい。
- (62) 家屋周辺の除雪が困る
- (63) 除雪の際に機会を扱える人がいないと除雪に苦勞する
- (64) 除雪、窓や屋根の破損が困る
- (65) こういうものだと思ってきて住んでいる
- (66) 除雪は今のところ周りの人と協力してできているが、10年後はどうだろう・・・。

4. 防災、防犯、見守り

- (67) 一人で暮らすことに不安がいっぱい
- (68) 地震がきたらどうしようと思う
- (69) 消防団は頑張っている
- (70) 何かあって避難する時、**公民館は避難所として開放すべき**ではないか

- (71) 大雨が降ったりすると沢が危ないと言われており心配である。自分ができる対策とご近所での助け合いは必要だと思う。
- (72) 災害時に必ず公民館に集まるということではない。状況に応じて公民館に避難するか、自宅に留まるか、ケースバイケースで考える必要がある
- (73) **防災訓練**は続けてやっていく必要がある。年に1回、どこの地域でも防災訓練をやっているのではないか
- (74) 災害など非常時に、地域の誰がリーダーシップをとるのかははっきりしていないという問題がある
- (75) 婦人会の役員は少なくなっているが、災害時の食事対応など、動く体制はできている
- (76) 災害時の声掛けなど、**今ある仕組みにプラスして上手に利用できる工夫**を考えたい
- (77) 有事の際の**連絡網**が必要なのではないか
- (78) この地域は火事になったら水がない。**防火用水に使う水路**を引くのはどうか
- (79) 沢内に、災害の時だけではなく、クマが出た時にも利用できる**防災スピーカー**を設置してはどうか
- (80) 鍵をかけない家庭が多い、防犯のためにも**玄関の鍵**はかけたほうが良い
- (81) 玄関の扉の施錠が大変
- (82) 玄関はカギをしても、施錠できていない窓があったりする
- (83) 昔はだんだんに話が伝わったりしたが、今はそうではない。住んでいても施錠している家もある
- (84) 一人暮らしでずっと施錠されていて安否がわからないケースがあった。そのような家庭は近所や仲の良い人に**合いカギ**をもってもらえばいいと思う。
- (85) 見えるところに緊急用の合鍵が必要ではないか
- (86) 前は万一の場合を考えて家族がカギをそれぞれ持っていたが、今は秘密の場所を決めて保管している
- (87) 昨年、町外の方によるものらしいが不法投棄があった。地主さんが言わない限り撤去できないとのことで困っている。町にも報告済だが、町が関わることではないと言われた
- (88) 中国人の鉄くず等の引きとり車がくることがある
- (89) 一人暮らしの見守りは民生委員や中山間の事業でやっている
- (90) 一人暮らしの人は、電話ではなく**直接会いに来てくれる**と嬉しいようだ
- (91) 一人暮らしの人はぜひサロンに来てほしい
- (92) **一人暮らし、二人暮らし世帯の見守り**を、チャイムなどを利用してやってはどうか

- (93) 自宅訪問でお年寄りたちの体調等の様子や話を聞いてあげられる活動
- (94) 防災訓練をやって災害時に対応できる体制にする
- (95) 高齢者の一人暮らしだと、何かあった時に助けを求める術がないので、何かシステムが必要
- (96) 子どもが町外・県外在住のため、今後のことが心配です
- (97) 昔からの災害の歴史を学ぶ

5. クマやサル、イノシシなどの有害獣

- (98) 気候の変化で有害鳥獣の被害も年々変化している。範囲も広がっている
- (99) 去年はクマに襲われたり、米を食べられたりするなどの被害が多かった。
- (100) 去年はトウモロコシを食べられたが、今年はハクビシンが来ていない。
- (101) 今のところ被害がなく畑も順調に作物が育っている
- (102) 盆前にサルが道路を渡っていった。今年はサルが出ている
- (103) 高下でもサルが出ている、サルの被害かはわからないが農作物にも被害が出ている
- (104) 行政は狩猟免許を取る人に補助をだすようだがハンターのなり手がいない
- (105) 有害鳥獣がいたら、隣近所や役場に連絡するようにしましょう
- (106) 町としての対策はどうなっているか
- (107) クマを殺してもらいたが数に限りがあるからなかなかやってもらえない

6. 空き家

- (108) 今のところ空き家はそれなりに管理されている。周辺で実害は出ていない。
- (109) 空き家の管理、除雪は大きな問題だと思う。
- (110) 空き家を壊すにも何百万とお金がかかる。空き家で人に迷惑をかけているケースはどんなのがあるか
- (111) 空き家の管理者へ連絡がつかならよいが、管理者に連絡がつかない空き家もある
- (112) 家の跡継ぎがどうなっているかという問題がある
- (113) もし地域で空き家の除雪を行うのであれば、お金をもらって行うべきではないか。
- (114) 空き家、地域除雪は雇用に結びつけられるのではないか。
- (115) 玄関前のみ雪払いをして、周りを払っていかない人がいる。なんでもかんでもボランティアで対応するには限界がある。
- (116) (空き家の)持ち主ではないので空き家の中までは入っていけない。完全に廃墟みたいになっている家は我々の手に負えない。

- (117) 片付けなどを町にやってもらえないか
- (118) 空き家を利用して住みたいという人がいる。空き家バンクの利用促進が必要
- (119) 住民は空き家バンクのことを知らないのではないか
- (120) 空き家バンクはあるが、片付けないまま登録しているがどんなものだろうか
- (121) 空き家バンクに登録している住宅は少ない。人に貸すのは嫌だと思っている人もいるのではないか。子どもが里帰りした時のために残しているというところもある
- (122) 誰が来て管理しているのかどうか分からない家もある
- (123) 川舟地区で空き家を共有できればいいのではないか
- (124) 何かあったとき用に管理を地域でやってみてもいいのではないか
- (125) 空き家を移住者の受け入れ先にすればいいのではないか
- (126) 別荘のような使い方でもいいのではないか
- (127) 空き家対策が大きな課題になる。空き家をどうするか考えてほしい
- (128) (アンケート) 空き家は問題である:74%。一人暮らしの人でみると87%が問題と回答
- (129) 空き家は壊すのが大変だと悩んでいる。
- (130) 川舟では3件空き家がある
- (131) 空き家バンクを利用してもらうのがいい

7. 移住者の受け入れ

- (132) 移住者は「来てくれるのであればどうぞ」という感じ
- (133) 不安感はある
- (134) 集落が壊される可能性もあるのではないか
- (135) しゃべりすぎる人も大変だがしゃべらない人も困る
- (136) 外国人でもよい
- (137) この地域の人口を増やしたい
- (138) 移住者を受け入れられるような魅力的な地域づくりが必要
- (139) この地域に移住者がくるようにしたい
- (140) 移住者との向き合い方も重要
- (141) 移住してきた人が集まりに参加しない。
- (142) 地元出身者は他県・他市町村から嫁や婿を連れて、覚悟してUターンしてくる人が多い
- (143) 今の若い世代は農業・林業に従事する人が少ない。西和賀町役場職員でも他市

- 町村に住んでいる人も多いが役場は地元に住む住民を採用すべきではないか
- (144) 西和賀の役場に西高生が入いれるようにしてほしい
 - (145) 若者が住める環境を整えてほしい
 - (146) 外国人の場合、コミュニケーションが難しい
 - (147) 川舟に住みたい人を増やしたい
 - (148) 企業連が昔はあった。今は別のものができている。
 - (149) 沢内として一つの大きな働き口になるのではないだろうか。
 - (150) 大きな会社になってくれればやりやすいと思う
 - (151) 若い人たちの働く場所がない。給料も少ない。

8. 地域の行事や交流・楽しみ会

- (152) 現状、サロンの参加者はかなり少ない。始めたころは 20 人以上参加していたが、今は 7 人程度である。地域で参加するように声掛けをしてほしい
- (153) 高齢者のみではなく子どもたちの参加も OK にするなど、参加年齢の制限を撤廃すべき
- (154) サロンは老人クラブが主催となっている。シルリハ体操を行っているが、あれは自分の体の調子を整える体操なので、是非みんなにやってもらいたい
- (155) シルリハ体操は良いと思う。やれば体の動きが良くなる
- (156) 今、サロンに参加している人は話し相手がほしくて参加しているのではないか。お話ができる場は必要だと思う
- (157) サロンに女の人は集まるが、男の人はあまり集まらない
- (158) サロンへの送迎については保険をかけて行っている。年齢関係なくシルリハ体操を覚えたりお話をしたりしてみんなに参加してほしい
- (159) 敬老会の現状は担当の負担が大きすぎる、公民館ごとにとむしろ負担がかかるのではないか。コロナで休みを挟んだが、復活させるのはとてもエネルギーを使うので大変なことだ
- (160) 行政区の公民館 1 か所で行うと年寄りが来なくなる
- (161) 行事のような堅苦しいものではなくお楽しみ会のようなものが、簡単な形でもつとできればいいと思う
- (162) 盆踊りは運営側の人手不足で店が出せなかった。大人だけではなく子供向けの店を出せたらいいと思う
- (163) 地域の集まりやお茶会が増えればいい
- (164) 今年の盆踊りの参加者は、他地区から来た人が多かった
- (165) おいしい野菜づくりを誰かから教えてもらいたい

- (166) このままではひきこもりになる
- (167) 一年に一度、地域の旅行ができれば楽しい
- (168) 一日でいいから温泉に行ってゆっくりしたい
- (169) カラオケの場所が欲しい。公民館でもよい。歌いたい
- (170) みんなが参加できるイベントが欲しい
- (171) 家にあるモノでフリーマーケットがしたい
- (172) イベントが中止になってもその代わりになるものがほしい
- (173) **食事会**
- (174) 郷土料理を学びたい
- (175) 植物を使った炭づくりに挑戦したい
- (176) 流しそうめん大会、花火大会、屋台があってほしい
- (177) 年齢に関係ない区全体で参加できるような行事などが必要
- (178) 冬におしゃべりの相手がいなくなる
- (179) 気軽に集まって世間話やゲーム、カラオケなど楽しみ合う集会所があってもいい
- (180) 冬の暇な時にみんなで漬物づくりをしてみたい
- (181) 地元の昔の食事(漬物、山菜料理、慶弔等に使えるもの)を教えてくれる活動に参加してみたい

9. 地域の宝物(習慣、自然、歴史・文化)

- (182) 若畑のように地域の史跡に説明や標柱などの目印がほしい
- (183) 冬場は地藏様のあたりの雪払いが大変。誰が見ても大事なものとわかるように目印を立てるなどして整備した方がよい
- (184) コロナ明け後の神社のしめ縄が粗末だった
- (185) 神社の杉の木が道路を狭くしている
- (186) 地域の観光資源の見直ししてみる
- (187) 地域で宝探しのようなものができればいいと思う。大人だけではなく子供や来た人に気軽に地域のことを知ってもらうきっかけにしたい
- (188) 地域文化の継承ができなくなる。文化・行事の伝承活動が必要
- (189) 盆踊りの太鼓を覚えたい
- (190) かたごの会の一本漬け作りは継続していきたい
- (191) 地域の文化、自然、歴史。
- (192) 自然景観、田植踊りなどの伝統文化。

- (193) 地域文化、自然
- (194) 盆踊り
- (195) お祭り関連、田植踊り
- (196) 地域のお宝に興味がある
- (197) 観光資源、沢内のみんなに知ってもらいた伝統が途絶えてきている。
- (198) 三拍子は復活したくても敲けない。
- (199) 盆踊りの行事の魅力が欠けてきている

10. 公民館の管理や活用

- (200) 公民館で何をやっているのかわからないという意見を聞く
- (201) 親しい人に声をかけ参加するよう促してみてもどうか
- (202) 施設を利用したらその人たちで掃除や片付けをしてもらいたい。施設を使う上で不便なことがあれば総会で話してほしい
- (203) 鍵を持っている人が数名いるようだが、鍵のありかがわからない(今は管理人、館長、管理人が持っている)
- (204) 公民館の管理を館長さんだけではなく、地域でできないものか。鍵を持っている人が利用しやすいというだけではなく、部屋数も多い施設なのでもっと利用しやすくできないものか。
- (205) カギの管理は館長さんに負担がかかるので、管理人さんがいた方がよい
- (206) 公民館を今以上に気軽に利用できればと思う(会議、災害時の避難場所、行事だけではなく)
- (207) 公民館をおしゃれなカフェみたいにした
- (208) 高齢になるにつれ、月数回でも、みんなが集まって体操やおしゃべりする場がほしい。特に冬場は必要
- (209) 公民館をもっと使いやすくする
- (210) 高齢者が普段に集い、お茶を飲む場所や食事提供できる場所があったらいい。
- (211) 住民同士が自由に集まれてお互い励まし合い、支え合う場がほしい
- (212) カフェ的な憩いの場所がほしい
- (213) 公民館等に集まって血圧測定や雑談をする
- (214) 公民館にエアコンをつけよう。階段を登るイスもつけよう。一階を広くしよう。

11. 自治会や地域の団体、活動の見直し

- (215) 地区の役職を一人に集中させないでほしい。そうならないよう行政も力や知恵を貸してほしい
- (216) 役職が多すぎる、一人1役が望ましい
- (217) 役職など一部の人が一生懸命取り組んでも地域づくりはできるのでしょうか
- (218) (アンケート)自治会などの地域の組織や団体の運営に課題を感じる:41%。
- (219) 昔のやり方にとらわれず、今できることを無理せずやってみた方がよいと思う。
- (220) 人口減少に伴い、区や地区の運営も厳しくなると思います。徐々に区や地区の合併も必要と思いますが、それぞれの地域の特色や考え方もあり、すんなりと上手くいくとは思えない。
- (221) 高齢化により先に立ってくれる人がいなくなるのではないかと思います。
- (222) 組織の高齢化、担い手不足。
- (223) 人間関係が課題
- (224) 慰労会の準備や片づけが地区の婦人会に委託され、女性のみで行っている、まだまだ女性のみで行っている。地区長が男性が多いなど、まだまだ男女の壁があると思う
- (225) 週1回の交通立ち合いは必要ですか。出来れば参加したくないのですが。

12. 地域活動への参加と貢献

- (226) 若者をどうやって集めるか悩んでいる
- (227) 若い人たちに興味をもってもらいたい。
- (228) 町への要望として、にしわが斎苑や沢内バーデンの利用方法の見直しをしてほしい
- (229) 企画の仕方を工夫すべきではないか。時間中ずっと踊っているのではなく、踊りは30分間とか時間を決めてやるのもいいのではないか
- (230) 地域や公民館について意見を言える場なので、住民はせめて総会には出てほしい
- (231) 高下は地域行事の参加率が高い方だと思う
- (232) 現状に合わせて行事のやり方を変えていく必要があると思う
- (233) 地域活動への参加は、その人の考えしだいではないか。私は好きなので参加する
- (234) 移住してきた人が集まりに参加しない(再掲)
- (235) 行事に参加しないのは、日中仕事していて忙しいからだと思う。「忙しくて参加できません」と言われる
- (236) 家の仕事も忙しい。自分のご近所の草刈りまでやっている

- (237) 行かない人はどうやっても行かない
- (238) ここはまだ敬老会に出る人が多いが、湯田の方では行かない人も多いようだ
- (239) 地域活動に参加する人が限られている
- (240) 地域活動で頑張っている人を褒める制度があってもいいのではないか
- (241) どのようにしたら若者たちが行事等に参加するようになるか真剣に考えてほしい
- (242) 各戸や個人でさまざまな団体に加入することになり、行事が多すぎる
- (243) 人数が少なくなっていくので、もう少し地域を広げて活動していったらどうか
- (244) (アンケート) 地域の行事や活動にできるだけ参加したい。73% (できれば参加したい33%、内容によっては参加したい40%)
- (245) (アンケート) 地域の問題に地域も関わって解決すべきだ:32% (60歳以上が40%、60歳未満16%)
- (246) 参加する人がいつも同じ人になってきている
- (247) 住宅の人たちが地域の行事にあまり参加しない理由がわからない。

13. ケイタイの使い方

- (248) スマホやパソコンなどの操作で困っていることはありますか(ある 12.7%、わからない 52%)

14. その他 地域の問題

- (249) 10年後、20年後、どうなっているかが気になる
- (250) 高齢者世帯が多く日常生活が困難になるのではないかと。
- (251) 高齢化、高齢者世帯の増加、人口減少に不安を感じる
- (252) 西和賀に仕事が少なく、盛岡や北上などに出なければ収入が確保できない。通勤時間も非常に長い。
- (253) 働く場所が少ないところ、町内から若者が出ていくことに不安を感じる
- (254) 高齢化、少子化、人口減少に伴う生産人口の減少に不安を感じる
- (255) 交通や近所まわりに不安を感じる
- (256) 人数が減っていき、いずれ町がなくなるという不安。
- (257) 日常生活が困難になるのではないかと、自治会がなりたたなくなるのではないかと。
- (258) 暮らしにくい(草刈りなどの共同作業ができない)
- (259) 地域活動の担い手不足、参加者の減。
- (260) 世帯の孤立、生活困窮
- (261) 若者が少ない
- (262) 地域自治の担い手不足、地域消滅の危機

(263) 今後の負担

(264) コンビニない。

(265) 一人暮らしで、自分が死んだあと墓や家をどうすればいいか不安

(266) 川舟でバスを買ってみてはどうか。(利用してくれる人、維持費、運転手がほしい)

(267) 葬式を家でやる人が少なくなった。家族が泊まれて、シャワーを使えるようにしてほしい。

(268) バーデンや空き家を改造してやってもらいたい

(269) 自分の山がどこからどこまでかわからない

(270) (山について)子供たちからどうにかしてほしいと言われている。相談が面倒くさい。いらないと言われる。

資料

地域のことを
みんなで話そう会

住民アンケートの結果が
まとまりましたので報告します
ご協力ありがとうございました

各公民館で意見交換会を開きます。この資料を使いま
すので意見交換会に持ってきてください。



暮らしのこと、悩みや困りごと、
こんなだったらいいなあと思うこ
となど、何でもOKです。
ワイワイ、ガヤガヤと、みんなで
話をしましょう。

ちょっとした食べ物をつまみながら、ジュースや
お茶を飲みながら、地域のいろんな話をしよう。

月 日	時 間	会 場
8/21 (水)	18:30~20:00頃	高下公民館
8/22 (木)	18:30~20:00頃	川舟地区公民館
8/23 (金)	18:30~20:00頃	丸志田公民館

ここに住みたいと思う人、みんなが
住み続けられる地域にしよう

地域づくり計画作成までの主な流れ

1. これまでの主な取組

- (1) 自治会総会で地域づくり計画作成を入れた令和6年度事業計画を議決（3/31）
- (2) 地域づくり計画を作成することを改めて確認（4/4 第1回役員会）
- (3) 計画作成の取組をできるだけ早く着手することで合意（5/13 第2回役員会）
- (4) 第1回地域づくり計画作成委員会・準備会（5/22 コアメンバー：会長・3公民館長・協議会会計）
- (5) 第2回地域づくり計画作成委員会・準備会（6/6 第3回役員会）
- (6) 第3回地域づくり計画作成委員会（6/20 第4回役員会）
※作成準備会が作成委員会になった。
- (7) 住民アンケートの実施（7/1～7/15）
- (8) 第4回地域づくり計画作成委員会（7/9 コアメンバー）
- (9) 第5回地域づくり計画作成委員会（7/25 役員会メンバー等）
- (10) 「地域のことをみんなで話そう会（住民意見交換会）」の開催（8/21 高下公民館、8/22 川舟地区公民館、8/23 丸志田公民館）
- (11) 第6回地域づくり計画作成委員会（8/8 役員会メンバー等）
- (12) 8/29 役員会（主に敬老会の話合い）
- (13) 第7回地域づくり計画作成委員会（8/29 役員会メンバー）
- (14) 第8回地域づくり計画作成委員会（10/3 役員会メンバー）
- (15) 計画作成に係る一括交付金の追加交付申請（5万円）（11/11）
- (16) 第9回地域づくり計画作成委員会（11/14 役員会メンバー）
- (17) 地域づくり計画（案）を公民館運営委員会で説明（11/28 高下公民館、12/3 川舟地区公民館、12/7 丸志田公民館）
- (18) 第10回地域づくり計画作成委員会（12/12 役員会メンバー）
- (19) 地域づくり計画（案）を全戸配布（12/16）
- (20) 計画面への意見募集（12/16～R7/1/5）
- (21) 第11回地域づくり計画作成委員会（1/30 役員会メンバー）
- (22) 第12回地域づくり計画作成委員会（3/13 役員会メンバー）
- (23) 第一次川舟自治協議会地域づくり計画を議決（3/30 川舟自治協議会総会）

2. 今後の主な取組

- (1) 地域づくり計画の実行 【令和7年4月～】

川舟自治協議会地域づくり計画作成委員会メンバー

【役職・所属等】	【氏 名】 (敬称略)
会長、行政連絡員	高橋 定雄
川舟地区集会所管理者	中川 伸一
丸志田集会所管理者	高橋 香
高下地区集会所管理者	村上 憲
川舟公民館	野中 孝勇
川舟公民館	中村 千一
川舟地区会計	中村 健
丸志田公民館	佐々木一夫
丸志田公民館	高橋 淳
丸志田地区会計	高橋 善夫
高下公民館	石井 敏明
高下公民館	佐藤 和雄
高下地区会計	吉田 晃
協議会会計	高橋 勉
民生委員 (高下)	吉田真理子
民生委員 (川舟)	高橋 浩子
PTA	久保日出喜

